

第4回「市民ふれあいトーク」－ごみの減量とリサイクル－

日 時 平成21年1月27日(火) 18:00～19:30

場 所 ライフパーク倉敷 視聴覚ホール

《市長挨拶》

今日は「ごみの減量とリサイクル」というテーマで、日頃、ごみやリサイクルに関心を持っておられたり、こういうアイデアがあるという皆さんがお集まりになられていると思います。いろいろなご意見をいただき、よりよい市政に繋げていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

《市長説明》

「ごみの減量とリサイクル」ということで、私のほうから簡単に概要や、市での最近のリサイクルの政策をお話ししたいと思います。

まず、倉敷市のごみの全体の量は、事業系のごみを含めると1年間に20万トン近い量があります。そのうち約6割は家庭から出るごみです。20万トンのうち8割にあたる17万トンが燃やせるごみ、家庭から出る燃やせるごみが10万トンあり、残りの7万トンが事業者から出た燃やせるごみになっています。この燃やせるごみは、皆さんにご協力いただき5種14分別を推進しているところですが、生ごみの量が非常に多くなっていて、半分近くが生ごみ、紙類が約20パーセントの量になっています。この分別を進めていったり生ごみの量を減らしていったりということによって、倉敷市でのごみの減量、リサイクルが今以上に進んでいくのではないかと考えています。当然、生ごみが多くなると水が多くなるので燃焼効率が悪くなるわけです。また、1年間に一人当たり106キロぐらいの生ごみが出ていて、そのうち15キロぐらいが、まったく手をつけていない食べ物のようなものです。既に皆様にご協力をいただいていると思いますが、いらないものを買わない、食べ残しをしない、水切りをするということによって生ごみの減量をすすめていければと思います。

生ごみの減量ということでは、昨年10月から「生ごみの堆肥化」に力を入れています。これまで、コンポストをすすめていくということの補助が少しあったんですが、なかなか利用がなされておりました。コンポストについては、これまで補助率が2分の1で上限金額3千円だったものを補助率を3分の2まで引き上げ、上限金額も5千円に見直しました。1世帯当りの補助基数を2基までとしています。5年を経過すれば新たな補助を受けることが出来るように要件を緩和しました。そうしましたら、これまでに比べて約10倍ぐらいの件数、応募していただいているということで、少しずつでも、スキル・意識を持っていただいているのではないかと考えています。

太陽光発電については、倉敷市では1キロワットあたり1万5千円で最大4キロワットまでの補助をしています。これは全国平均並みということですが、21年度から太陽光発電

を普及していけるような方向に出来ないものか、検討しているところです。

ペットボトルの拠点回収を市内のスーパーなど、多くのところをお願いしていますが、「もっと拡大できないか。ごみステーションで収集できないか」という声を多くいただきますのでこれについても検討をしている状況です。

《参加者》

リサイクルというと環境にいいものだと言われているが、最近、疑問符を呈する書物が出ており、ペットボトルなど、結局資源の無駄になっているということが数字を使ってわかりやすく書かれている。「リサイクルは一部を除いて資源エネルギーの無駄になっている」という考えは、なかなか一般に受け入れられる所まではいっていないが、市長の考えは。

《市長》

なかなか難しい問題ですが、基本としてリサイクルをすすめていきたいと思っています。そういった話があるので、私も環境省のホームページを見たり、環境省の考えを聞いてみました。いろいろな考えの方もおられるし、いろいろな前提にもとづいて試算をされているということですが、環境省としては、国全体としてリサイクル・リユースをすすめていくということが地球全体に対してよいと基本にあり、明らかにこれをやったら害になるというものがない限り、リサイクル・分別を進めていこうと思います。今年の4月から、倉敷市の組織を「市民環境局」から「環境リサイクル局」という名称に変更し、リサイクルに関するいろいろな部局を集めて環境の部局を作っていきたいと思っています。

《参加者》

市のリサイクルだけでは限界があると思う。食べ残しがあるのなら小さいときからの食育を。リサイクルは、自然環境の問題と非常に関係しているし、電気式乾燥機は、CO₂やエネルギー問題を数字で検証しておいてもらわないといけない。減量についても、横浜市はごみを3割減らして清掃工場を2つ止めさせることに成功したと言う話があるが、市は「横浜と倉敷ではベースが違う」と相手にしない。ベースが違うのならその違いを公表して、参考になる点は少しでも参考にしてもらわないといけないと思う。

《市長》

15キロ近い食べ残し、ひとりあたり106キロの生ごみは量が多いと思います。ごみに関する経費をすこしでも削減して、福祉や子育てにお金をまわしていきたいと思っていますので、これをすすめていくうえで、市民の皆さんのご協力が必要だと思っています。

電気式生ごみ処理機についても、マンションではコンポストがなかなか出来ないのので、電気式を使っていたきたいという思いで、昨年補助率をアップさせていただきました。

た。ただ、電気式の補助率は2分の1、コンポストの補助率は3分の2までなので、両方できる環境の方は、堆肥のほうを選んでいただきたいという思いの補助の仕方になっています。

横浜市の「G30・ごみ減量30パーセント」のことは、環境部がベースの違いをもう少し説明できたらよかったですと思います。私もいろいろ勉強をしましたが、実は、倉敷市は5種14分別を昔からやっているわけですが、それを横浜市が勉強しに来て横浜のG30としてやっていると聞きまして、最初に取り組んだものの、横浜のほうがPRがうまくいっているのか、そのあたりは倉敷市も努力しないといけないと思います。G30は参考になると思います。

《参加者》

「太陽光発電は屋根の上のせて不恰好、また結構高く、2、3百万するんじゃないか。家のローンもあるので大変」と言う人がいるが、市としてはどのように奨励しているのか金額などわかれば教えていただきたい。

県北などは木材をエネルギーに使い、特に冬場はそれを活用すると森林を伐採するだけでなく、植林をするということをしているが、倉敷ではそういう計画はないか。

古いかもわからないが、私は2000年の基本計画書で、ペットボトルの出し方、生ごみの処理容器など勉強させてもらっている。エアコンの温度、節水、環境家計簿のことなどがかいてある。家計簿や日記をつけているが食材を買うにしても無駄があることに気づく。生活態度を変えてエコをやらなければ。

《市長》

2000年の環境計画書は、わかりやすいものにするなど内容をバージョンアップしなければいけないと思いますが、なかなかよくできていると思います。環境負荷削減プログラムをつくりたいと公約にあげていますが、環境基本計画書を21年度に向けて、新しくわかりやすくしたいと思っています。当時からも環境については最先端でやっていたのですがもう少し幅広く普及できれば良いと思います。

太陽光発電は、ひとつ当たり200万か300万くらい、大体10年くらいで元が取れるといわれています。市の補助が6万円ありますが、広報紙等でそのへんの補助をわかりやすく説明できればいいと思います。

《参加者》

メーカーによって違うのでは。

《市長》

4大メーカーがあって、それぞれ特色があるので、市のほうでこれが良いとはいえませ

んが、今後は特色を言えるようにしておきます。木材についてはあまりやっていません。風力発電はどうかと思いましたが、いかんせん瀬戸内のべた凧というのがあるのでなかなかむずかしいと思っています。主に「晴れの国」の太陽光をしっかりすすめていく方向です。

《参加者》

私がエコロジーという言葉に出会ったのは高校生のときで、この50歳でエコというものに出会ったら関心は薄かったと思うが、17歳という若さで出会ったことで心にしみるものがあった。消費世代の人たちが保護者になっていて、両親の価値観が変わらないと子どもによい環境の教育は出来ないと思う。私の11歳の子どもは、物の大切さがわかっていないので、私が彼の前で節電をしたり、堆肥活動をしたりしていると、3ヶ月もしないうちに自分から節電プラグのスイッチを切るようになった。大人たちが子どもに見せる教育、小・中学校とか幼稚園で子どもに見せる環境学というのが、まだまだ、この地域には根ざされていないのではないかと思う。

学校の見学では、エコワークスより、ぼかしをつくっている船穂町の見事なシステムを見学させたい。灰になるのではなく、リサイクルになっている現場を見て、学校等でリサイクルを体験し、その毎日毎日の積み重ねで、子どもの価値観はもちろん親も子どもから教えられるということもある。市町村では安易にごみの有料化をしているが、どこかの村では分別が細かいので1週間に出るごみが小さい袋一つしかないと聞いた。まだまだ倉敷市の考えは甘い。リサイクルのことをすすんでしてくれる社会環境、教育環境を市長にがんばっていただきたい。

《市長》

私も、子どもときの体験、親の背を見て育つということだと思います。エコワークスもいいところがありますが、出来れば、堆肥センターの見学に行ってもらいたいと思います。堆肥センターは船穂の誇るべき施設だと思いますし、いろいろなところから見学に来ていますので、もっと、市内からの見学をすすめるよう教育委員会にも言っていきたいと思いますし、船穂方式が出来る範囲で市全体にすすめられるにはどうしたらいいか、今後考えていきたいと思います。

《参加者》

ミミズのコンポストというのがあって、容器に生ごみを入れると一定の量以上に増やさない。虫とか臭いを気にする方はそういうのをやってみたらいいのではないかと思う。集合住宅にすんでいるので、ミミズが逃げたときに近所に迷惑をかけてはいけないと思って、船穂町の堆肥センターを知ったが、旧船穂町の人でないといけなかったと言われた。船穂町の

人以外が搬入できるようにするとか、他のところでもそういったものができるようなことはないか。

《市長》

ミミズは確かに堆肥を作るので、ミミズをコンポストに入れておくと効果が高いということなんです。

堆肥センターは旧船穂町の政策で、銀紙ひとつ入っていてもだめだと非常に厳しくなっています。意識が高かたならそこで受け入れが出来ないかと思うんですが……。市の給食調理場が出た残飯などを、船穂の堆肥センターに持って行って、堆肥化がすすめられないかと思っています。船穂町以外でもどうやったら出来るのか、何が障害になっているのか検討したいと思います。

《参加者》

市全体で持っていけばいいのでは。

《市長》

運ぶのが難しいと思います。何とか近くだけでも出来ないかと思いますが。

《参加者》

ごみステーションに太陽光発電を兼ねてソーラーパネルを置き、臭いが出ないようにして、そこに生ごみをいれたら、堆肥が出来て、家庭菜園や花をつくっている人が持って帰るとするのは無駄が無いと思うが。

《市長》

良い考えだと思います。太陽光発電の金額とそこでリサイクル出来るものとの費用対効果を出してみたいと思います。

《参加者》

太陽光発電のメーカーの研究者たちは、「今、太陽光発電は民間の電気キロワットあたり27円ぐらいかかるが、すべてを計算すると40円を超えている。後数年待ってくれば必ず20円を切る。エネルギー問題は太陽光を中心になってくるんじゃないかと各社がしのぎを削り、変換機の寿命がいかにか延びるかがポイントで、初期のものは6、7年しかもたず、今10年ぐらいで、もう少し伸ばせる可能性がある」と言っている。

堆肥化というと穴を彫って埋めれば土に返っていくことはわかっているが、堆肥を作ってどうするのか。やったらどんなものが実感として得られるかということをもう少し明確にしてあげないといけない。プロのひとは、「肥料というのは何を作るかで成分を分析して

決めているので、何を元に作ったかわからない、もちろん分析もされていないものは使えない」と言われた。家庭で作ったものは家庭の範囲のスパンでしか使えない。船穂町で全体的な総合的な集めるシステムが出来ていればそこを有効に使うという方法はあるが運搬の問題がある。臭いの問題もある。減量だけで考えると、船穂町にEMを教えた藤本みちこさんは、「若い人は生ごみなんかいじるのはいや。何のメリットがあるか見せないと続かない」と言っている。その先生は小学校に行って「生ごみは汚いものじゃない、菌は何でもパクパク食べて元に戻してくれる。」と紹介しているらしい。

《市長》

「こうすれば太陽光はこれだけ安くなります」など、目に見える実感、わかりやすく、そういうことが大切だと思いました。特に小学校とかの勉強、授業の中で採り入れるというのが大切だと思います。

《参加者》

市議会で市長が「ごみをいかに減量するかという市民の方の気持ちにより、有料化する考えはない」と言っていた。広報に、紙を紙袋に入れて出してもいいと書いてあったので、それを実践しているが、今日、16人の前でその話しをしても、たった一人しか知らなかった。それらをもっと知ってもらうためには、公民館活動の講師や、小さいときに知ったものは身につくので学校の先生にお願いすることが必要だと思う。

《市長》

ますます、市民の皆さんによくわかっていただく、知っていただくことが必要だと思います。確かにやり始めると、例えば、私もペットボトルのお茶を飲んだ後びりびりっと破って足で踏みつけないと気がすまなくなっているんです。そういうことが習慣になるように、「なぜ、これをするといういいことがあるのか」という実感をということですね。環境部の啓発活動だけでは足りないと思いました。学校とか公民館とか、学校の見学とか、小さい頃の教育ですね。

《参加者》

仕事でいろいろな市町村へ行くが、そのときはマイ箸やマイバックを持ち歩いている。倉敷の場合はマイバックを持ち歩いている人がほとんどいない。岐阜県の高山市役所の担当課は、いきなり業者を集めてレジ袋有料化の音頭をとったということだった。一袋5円で、それを業者に還元して、かかる経費に使う。それによって、ほとんどの人がマイバックを持っている。レジ袋のごみが多いと聞いたのでそういったことを取り組んでみたらいいと思う。大手スーパーが主でコンビニや普通の商店ではやっていなかったが、そこまでを引きこもうと思ったら市が音頭をとりマイバックを推進した業者は非課税にするとか、しな

いところには課税するという形をとればせざるを得なくなるのではないか、そういうことは市しか出来ないし、市町村でそれをやっているところはない。それによって市のほうも財政が軽減されるし、ごみが減量されれば償却の費用が助かるんじゃないかと提案したい。

《市長》

現状では倉敷市ではレジ袋は有料化されていませんが、各市町村は大きいスーパーが同時に、県下一斉に出来ればいいと思っています。今すぐにというところまではいっていませんが、遠くない時期に、レジ袋有料化という方向に進んでいけるんじゃないかと思っています。法人市民税を減免にしましたら市のほうのお金が入ってこないんで・・・。

高山市はほとんどマイバックを持っているということなので、倉敷市もそういう方向でがんばりたいと思います。

《参加者》

徳島県の上勝町は、2010年までにごみをゼロにするという取り組みをしていて、分別は三十何種類、ごみをみんなが持ってくるので、ゴミ回収車が無い。公民館など市民が集まるところに講師を呼んできて、どういうメリットがあるのかを何回も説明し町民の理解を得て、そういうことが可能になったということだった。ごみをいっぱい出す人と出さないようにしている人に差があってもいいのでは。ごみの有料化も選択肢の一つではないかと思う。自転車通勤は通勤費が高くて、自動車通勤は通勤費が安いという話を聞いたが、損得勘定も考えてみてもいいと思うが。

《市長》

ますます、環境部だけでなく教育委員会を含めた教育をしっかりしなければいけないと思いました。2月から岡山市が有料化ということで、倉敷市はどうするのかと質問をよく受けます。議会でも答弁をさせていただいたんですが、私の今の考えでは、有料より減量化です。とことん市民の皆さんに呼びかけて全体の量が減れば有料化はしなくてもよいし、それでもどんどん増えて、市の財政が苦しくなったら今のままではいけないと思うし、今の段階ではやれることをみなさんに呼びかけてやってみたいというのがわたしの気持ちです。16人で1人しか知っている人がいないということなので、しっかりとした教育と広報活動をしなさいといけないと思いました。環境部でも環境に関する塾とかをやって、そこで人を育成し、その方たちが地域で教えてくださるような仕組みも、考えてくれていますが、それに加えて公民館活動、学校、見学が必要だと思っています。

《参加者》

「環境」という冊子が広報紙と一緒に配られ、水島の協議会と個人が大臣表彰されたと載っていたが、何を評価されたのかが書いていなかった。評価された内容、ノウハウに関

しては地域で使えるのでそういったことも載せれば良いと思う。

《市長》

広報の中でも、具体的なことを書くということですね。

《参加者》

新しくこられた方に対する指導や周知の方法がもう少し出来ないかと思う。収集の方法とかを目に触れるように教えてもらえれば良いと思う。

《市長》

年に何回かは広報紙にも出していますが、回数を増やしたり、もう少し具体的にしたいと思います。

《参加者》

私は、リサイクルの紙芝居でからだを動かして観光客のために役に立つことを15年位している。子どもからお年寄りまで、「ごみは楽しい、わたしもやってみようか」というインパクトがある。観光のために、ごみで日本全国から人を呼べないかと思っている。

《市長》

これからも活動をがんばってください。

《参加者》

船穂の堆肥センターのようなものを市として作り、いいものが出来れば、例えば連島のレンコン畑など地区を決めて協力してもらい、やってみれば。

《市長》

船穂のものは質が高く全国から引き合いがきているようです。センターでつくるものと家庭で作るものは質的に違ってくると思うんですが、そういったものに協力して参加してくれる地区が出てくる方向になれば良いと思います。

《参加者》

私は肥料化というより、増えないものを実験している。一日300グラム消化できるもので倉敷専用の容器ができれば非常に面白いと思う。赤磐市と丸亀のかたが一部実験していて、この方式で東京のほうでパッカー車が714台減ったという実績が出ている。

《参加者》

ごみのことについて知らない人がいっぱいいて、私たちも知っていることは教えてあげないといけないと思う。難しいことは頭が痛かったり、太陽光が良いと思っても500万もするものはやはり出せないで、できることを少しずつみんなに広めたい。マイ箸の作り方を教えてもらって家族分をつくって、外食には必ず持って行くようにしている。楽しんで自分が出来ることを、苦痛にならず、でもしなければならぬことを癖にしながらひとつずつ増やしていくことが、今私たちが出来ること。市にはコンポストなど教えてもらいたいし、補助をたくさんもらえるようになったら……。家庭で出来ることをみんなで広めることが一番だと思う。

《参加者》

昨年夏、くるくるセンターに岡大の先生が講義に来られて、エコロジーについて勉強した。そういったことに関心を持たない他の地域から来た単身者、大学生たちに、どう伝えて広げていくかということは大事だと思う。倉敷にはいろいろな大学があるが、学生や若い人に協力してもらい大学での環境、エコ活動を推進してはどうかと思う。

また、市は縦割り社会なので、市役所の中から縦と横の顔のつながりをつくらないと、こんな大きなテーマは解決しないと思う。市長には、市の中のコミュニケーション、ベースをしっかりとしてほしいと思う。

《市長まとめ》

今日は、皆さんからこれから大変参考にさせていただきたい意見をたくさんいただきました。ミミズの具体的な話から、全体的な考えかたのお話、子どもさんに対する教育やワンルームマンションの学生さん、倉敷市には9校の大学がありますので、学生さんの意識も必要になると思いますし、知らないかたが多いという話、強制でなく楽しみながらメリットが実感できて、市のほうもわかりやすい広報をして、それが市民の皆さんの口伝で、「太陽光発電をすれば10年でこれだけ実は得になる」「こうやったら楽しくできる」というのを勧めていけるようがんばりたいと思います。本当にいろいろな意見をいただいてありがとうございました。今後、先ほど言っていた環境の広報紙のことも含め、よりわかりやすく実感ができるような活動をしっかりとやっていきたいと思っています。ありがとうございました。